

# アメリカの 『FRB前議長のバーナンキ氏』、 『元財務長官サマーズ氏』へ 日銀関係者が 「世界的に恥ずかしい低レベル」の質問

一般の財務諸表の見方で分かるように会社の経営状態を判断するには「貸借対照表」をよく見ます。

国家の経営状態を判断する場合も同じで

「政府を親会社」とし「日銀を子会社」として一体とする考え方で「統合政府バランスシート」で判断します。

この世界的にポピュラーでスタンダードな考え方は

どちらかの「資産」はもう一方の「負債」であり、どちらかの「損」はもう一方の「益」になる、というもの。

会計の基本のようなもの。弊社ワイズの税理会計事務所も「貸借対照表」は作っています。



米国元財務長官サマーズ氏

アメリカの『FRB前議長のバーナンキ氏』、『元財務長官サマーズ氏』。どちらもノーベル賞受賞者候補ですが、安倍晋三総理の要請で来日しました。

その際に日銀関係者から

Q「日銀の評価損に問題はないか?」

と質問がありました。

—— その質問に応じてサマーズ氏は

A「だから、なに?」

と応え、バーナンキ氏はもう少し親切に

「日銀資産の評価損は政府負債の評価益

だから問題はない。それでも気になるのなら、政府と日銀の間で損失補填契約をむすべばいい。」と応えた。

このノーベル賞候補の2人は共通して「統合政府バランスシート」で財政をみていること。サマーズ氏は「統合政府バランスシート」で財政を見ることは世界的にスタンダードなのにこの日銀関係者はなんとレベルの低いことを質問するのか?!と、呆れて『だから、なに?』という表現になったのでしょ。う。

つまり彼らにとって「統合政府バランスシート」で財政を見ることは常識中の常識だったのだ。

日銀関係者の質問は「世界的にも恥ずかしい低レベル」の質問だったらしい。

## ところで、わが日本国に「借金問題」はありません。

財政危機だから「財政再建」をやるべきだ。これ、「財務省の大ウソ」プロパガンダというやつです。

先月号で国が借金をするときには国債を発行すると書きました。

政府が発行した国債は「日本円建て」で日本の金融機関が入札（オークション）して買っています。その民間金融機関から日本銀行が国債を買うのです。お金は日本国内でぐるぐる回されて国債が外国で売られることはありませんので日本にはギリシャのようなデフォルト（支払い不履行）はありません。つまり日本政府の国債を日本人が買い、日本銀行が日本円で



安倍晋三首相（右）と会談するFRB前議長のバーナンキ氏（左）

買い取って日本銀行が国債購入額に合わせて日銀券（お札）を印刷するのですから、日本国内でサーキュレートしているだけです。だから我が国に「財政問題」、「借金問題」はないのです。

**日本の財務省は「日本に財政問題が存在しない」のに『財政破綻』する、と【大嘘の宣伝】をしているのです。**

これだけ「重大な嘘を堂々と宣伝している財務省」の高級官僚・エリートを安倍晋三政権は処分もせずに野放しにしています。これを“アホ”と言わずに何を“アホ”というのでしょうか？

**財務省のような輩を【国賊】というのです。**

.....  
**安倍晋三政権は“アホ”だから、景気回復は期待できません。**  
 .....

安倍晋三政権は「アベノミクス」で雇用を増大させ、外交で目覚ましい成果を収め、足掛け6年目である程度の実績を上げました。

しかし、我々庶民のお財布は全然重くなりませんね。

それは安倍晋三政権が“アホ”だからです。安倍晋三政権が賢かったら2～3年目で景気は回復していたでしょう。景

気が良くなると思うから庶民は黙って安倍晋三政権を応援していたのです。

「日銀法を改正するぞ!」と脅して白川⇒黒田東彦にチェンジさせたところまでは大正解。

そのあとはグズグズです。

**★消費税は増税する。**

まず、これが間違い。

「金融緩和」のアクセルを踏んで「緊縮財政」でブレーキを踏む、先月号で「家庭流の、やりくり経済」をやってはいけない、と書きましたが毎年、「黒田バズーカ」で国債をガンガン発行しておきながら予算では「緊縮政策」でブレーキを踏む。

こんなちぐはぐな国家運営をやっている安倍晋三政権は「景気回復」を本気でやるつもりがあるのですか？と改めて問い直したい。

増税をそそのかした財務省の役人、財務省の息のかかった似非学者に報復しましたか？

安倍晋三氏は“アホ”だから気付いてもいないでしょうね。

.....  
**田中角栄流「報復の人事」に学べ**  
 .....

田中角栄なら、必ず報復しました。

役人もマスコミも労働組合も経営者も田中先生の言うことだから言う通りにしようじゃないか。こういうコンセンサスが自

然に生まれたのです。

春闘で「ゼネラルストライキ」突入!! と労使が揉めたときも経営者たちに「給料をあげてやれ、田中角栄が保証する」とあの「だみ声」でやられたら誰も抵抗できません。

今太閤、田中角栄には国民的魅力がありました。

だから、アメリカの『ロッキードの罠』に落ちても「キングメーカー」として最大派閥を維持し続けられたのです。

田中派の政治鉄則は《報復》です。

報復といってもモンゴル力士の「八百長」「星のやり取り」「暴力によるリンチ制裁」とは意味が違います。

一番重要なのは「選挙の仕方」です。選挙力がまず違っていた。

田中派は弱い候補者でも徹底して指導します。「選挙顧問団」を送り込み「獅子奮迅の戦い」を繰り広げます。そして政敵は必ず倒していきます。

渡部恒三先生が、ズーズー弁で「田中角栄のオヤジに呼ばれてなあ、行ったら



田中角栄元総理大臣

鳩山由紀夫君がいて、恒三、鳩山君は選挙に出ることになったがまあ、学者みたいなものだから選挙のことは何一つもわからん。名刺の出し方から握手の仕方、お辞儀の仕方、なにからなにまで君に任せるからよく教えてやってくれ。

こういわれた渡部恒三先生、それから鳩山由紀夫氏の北海道の選挙区の温泉に鳩山由紀夫先生と共にこもり、選挙の仕方を手取り足取り教えたそうである。

なるほど、こういう具合に選挙の準備ができれば、選挙に強く、先輩後輩の絆は強く結ばれるに違いない。

『田中軍団』の「面目躍如」と言ってよいでしょう。

---

## 世界一安全な通貨「日本円」

---

有事の際に世界中の金持ちがこぞって買いに走る安全な通貨は「ドル」でした。それが「有事のドル買い」です。これが



渡部恒三元通商産業大臣

当たり前でした。

ところが今では「有事の円買い」が常識になっています。

★「世界で最も国債の金利が低い」・・・つまり金利が低いのに「日本の国債」は直ぐになくなります。金利が低いのに「売り切れてしまう」のです。

### 日本の国債は人気商品です。

日本円を買ってもあまり儲かりません。しかし、有事の際に「円買い」に殺到するのは「円」が世界一安全な通貨である証拠です。

その根拠は「日本政府にお金を貸しているのが日本国民」だからです・・・安全の根拠はここにあります。

さらに「国債」は100%日本円建てです。

政府は日本円を発行できる日本銀行を子会社に持っています。

世界第2位～3位の経済大国でありながら、安全な国際通貨は日本の円だけです。

日銀が通貨発行量を「異次元の量的緩和」をしているのに円安にブレーキがかかり円高にぶれるのはなぜなのでしょう？

日本の「財政破綻」をプロパガンダする財務省と、財務省の意図を付度するマスゴミは円高要因について「説明ができない」でいます。

財務省が「大嘘」をついて「財政破綻」しているから「財政再建」をしなければ

ならない、という理屈が「屁理屈」である事がバレてしまうからです。

どう考えても「財政危機」の国の通貨「円」が「世界一安全な通貨」である事は不可能でしょう。

**世界唯一の安全通貨だから黙っていても円高に振れてしまうのです。**

円安になれば株価が上がります。

逆に円高になれば株価下がります。

円高ならデフレ、円安ならインフレです。

日本政府は2%の円高目標を定めて、足掛け6年間安倍晋三政権はアベノミクスで経済政策をやってきた事になっています。円高目標の2%は実現できませんでした。

アベノミクスは「いつまでも道半ばであります(安倍首相の口グセ)」。その原因は安倍晋三内閣が“アホ”だからです。安倍晋三内閣のガバナビリティーが欠如しているのです。政府の意思を官僚に正確に伝えられないことが最も大きな原因です。

もし、田中角栄先生が生きていたら「晋三しっかりしろよ!」というだろう…ね。

